

## ■ファイバオプティクス標準化部会

### 概要

本部会は、ファイバオプティクス標準化活動を常に先行けん引することを目的に発足し、光産業技術標準化会傘下において、標準化活動全体の整合性及び方向性の調整を効率的に図りつつ促進していく企画推進の役割を担っている。

ファイバオプティクスの主要な利用分野のひとつである通信においては、特に光アクセスによる高速インターネット接続回線の成長が今後も見込まれている。無線アクセスの最先端である5G（さらには6G）において、無線基地局と拠点を結ぶ光通信インフラとしてファイバオプティクス関連技術は重要性を増している。さらに、2020年初頭より始まったCOVID-19感染拡大は、2023年度は収まりつつあるものの、これに端を発した業務のリモート化は、業務効率アップの観点から、引き続き推奨されており、情報通信インフラへの需要及び期待の高まりは継続している。また、近年における急激な情報流通量の増加に伴って生じた、データセンタやルーターなどの機器における消費電力・発熱増大への解決策として、今まで電気により行われてきた情報処理をファイバオプティクス中心に培われた光に置き換えることで、消費電力を抑制したいという動きも始まっている。さらに、当部会でも推進してきたファイバオプティクスを用いたセンシングにおいては、社会的に重要と考えられるインフラを対象とした利用が拡大しており、2023年度より当部会翼下の専門部会から独立し、光ファイバセンサ標準化部会に格上げし活発な活動を行っている。このようにファイバオプティクス関連技術の応用範囲はさらに広がり、同時にその標準化も重要性を増している。すなわち、標準化の目的と対象を常に見直し、標準化すべき項目の洗い出しと、あるべき姿を明確にする、標準化ビジョンを策定することが重要である。

本部会は、このような問題意識に立脚し、ファイバオプティクス全般に関する調査研究を推進するとともに、JIS化および国際標準化における問題点の改善・戦略の策定について重点的に取り組んだ。また、JISおよび国際標準の補完や、国際標準化提案の素案として、本部会で検討し導入した光協会規格（OITDA規格）・技術資料（OITDA/TP）については、標準化推進のためにより一層の発展を図っている。

2023年度は、翼下に、企画調整専門部会、および建物内光配線システム専門部会の二つの専門部会を設け、活動した。

### 部会開催予定(2024年度)

回	日程	曜	時間	会議形式	備考
第1回	2024/9/10	火	15:30～ 17:30	online	
第2回	2025/3予定		15:30～ 17:30	hybrid	

(順不同)

参加メンバ
N T T アドバンステクノロジー株式会社
日本電信電話株式会社
名古屋工業大学
株式会社フジクラ
古河電気工業株式会社
株式会社白山
富士通株式会社
国立研究開発法人情報通信研究機構
株式会社 日立製作所
沖電気工業株式会社
東京大学
横河計測株式会社
大阪公立大学
経済産業省
一般財団法人日本規格協会